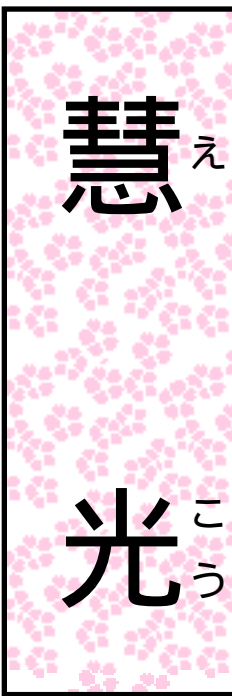




ピンク色の梵天(白はよく見ます) (9月9日撮影)



金光寺寺報
第171号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

ぼんのう あらし なか ねんぶつ
煩惱の嵐の中にも念仏において

ほんがん よ ごえ き
本願の呼び声が聞こえてくる

今月の言葉は、真宗大谷派の正親含英氏の言葉です。浄土真宗の真髓を伝える素晴らしい言葉であり、また氏のご法義に対する真剣な迫力を感じさせる言葉でもあります。阿弥陀さまはお浄土にいて、私たちが来るのをただ待っている如来さまではありません。私を心配して立ち上がり、私の所にやってこられたのです。そしてどれほどの時間がかかろうとも私を念仏する者へと育て上げ、煩惱を抱えたまま浄土へと導いてくださる方です。そのことを告げるのが「南無阿弥陀仏」の喚び声なのです。

「南無阿弥陀仏」とは、一般的には「阿弥陀仏に南無します」、すなわち「阿弥陀さまにおまかせします」という意味で理解します。しかしそれが喚び声だというのなら、「阿弥陀仏に南無せよ」と聞こえてきます。それは「私(阿弥陀仏)にまかせなさい(南無)」と聞こえて

いるのです。親鸞さまはその声こそ、私の人生すべてを包み込むあたたかい如来さまの名告りなのであり、その名告りがあったからこそ、私は「阿弥陀さまにおまかせします」とお念仏するように育てられたのであると教えていただきました。

煩惱のあるままに救うということは、私が優しい気持ちの時でも、誰かに怒っている時でも、誰かに親切な時でも、意地悪な時でも、笑っている時でも、泣いている時でも、どんな時であっても、私に寄り添い、決して見捨てない阿弥陀さまだということです。まさに煩惱の嵐のような私の人生に、お念仏の喚び声が聞こえてくる時、そのような尊い如来さまに私たちは出遇っていくのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

9 月

13日(日) 終日
18日(金) 終日
23日(水) 終日

2016(平成28)年

2 月

20日(日) 終日



ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
9月9日現在 アクセス数 76,231人

昨日(八日)は二十四節気の一つ「白露」で、秋らしいカラッとした風が吹きました。ただ、朝夕は涼しいというより肌寒い感じがして、朝起きるとすぐにしていた仕事、サツシを開けて回るという作業が無くなりまして。柿の実が色つき始めたし、道路に落ちている栗を拾う人を見かけるようになりまして。「収穫の秋」「味覚の秋」も間近です。基礎代謝が落ち、すっかりメタボ体型になっていきますので、注意しないといけないなと思うことです。坊守や息子はメタボ体型から二カ月で見違えるような体型に変わる「マーシャル」をして、「ライザップ」に行ったらと言います。腹立つな。寺報が皆さんのお手元に届く頃(十三日)は鞍岡中学校の最後の体育祭です。生徒数二十名で、最後の体育祭に向けて夏休みから連日一生懸命練習している姿を見てきましたので、必ず応援に行こうと思っていました。招待状をいただきまして、これで遠慮することなく応援できます。一日、しっかりと声援してきます。(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

韋駄天

十月十二日は 体育の日です。各地で体育祭や運動会が繰り広げられています。そのとき、大変足の速い人がいると、よく韋駄天だとか、韋

駄天走りなどと呼ぶことがあります。韋駄天は、もとはインドの神の子でした。しかし、後に、仏教の守護神となり、増長天の八代將軍に加えられました。足の速い悪鬼を追いかけ、奪われた仏舍利を取り戻したという伝説をもっているほど、足の速いことで有名です。そうしたことから、現在では、足の速い人を韋駄天と呼ぶようになったのです。運動会、頑張ってください。



(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇から)

住職ひとりごと

責任役員・総代改選

退 任

責任役員(門徒代表)
平成二十三年九月十七日から一期四年間責任役員を務めていただいた那須克巳さんが勇退されました。

総代二期を含めると十二年間金光寺の護持にご協力を賜りました。ありがとうございます。

- 総代
- 第一総代区 甲斐達夫さん (一期 四年間)
 - 第二総代区 石井重久さん (一期 四年間)
 - 第三総代区 橋本 榮さん (一期 四年間)
 - 第五総代区 渡邊興雄さん (二期 八年間)
 - 第六総代区 平田 登さん

(半期 二年間)
勇退された各総代の皆さんにも金光寺護持についてご協力を賜りました。ありがとうございます。

新任・再任

責任役員(門徒代表)
九月七日に開催しました金光寺総代会で門徒代表の責任役員として藤木敏さんが選任されました。

- 責任役員(寺族代表)
松井久美(再任)
- 総代
平成二十七年九月十七日から四年間おつとめいただく各総代さんを紹介します。
- 第一総代区 渡邊 強さん(新任)

- 第二総代区 石井一廣さん(新任)
 - 第三総代区(会計監事兼務) 渡邊義文さん(新任)
 - 第四総代区 藤木 敏さん(再任)
 - 第五総代区 矢間富夫さん(新任)
 - 第六総代区 菊地一夫さん(新任)
 - 第七総代区 藤本榮一さん(再任)
 - 第八総代区 藤田忠義さん(再任)
 - 会計監事(門徒代表) 藤本善人さん(再任)
- 新体制の皆さん、どうぞよろしくお願ひします。
- 以上の皆さんと代表役員松井卓郎の体制で金光寺の運営・護持を行ってまいります。ご門徒の皆さんのご協力よろしくお願ひします。

退任された方々(石井重久さんは不在・左写真)



新任・再任された方々(矢間富夫さんは不在・左写真)



法語の世界

〈原文〉

信のうへはさのみわるきことはあるまじく候ふ。あるいは人のいひ候ふなどとして、あしきことなどはあるまじく候ふ。今度生死の結句をきりて、安楽に生ぜんと思はん人、いかんとしてあしきさまなることをすべきやと仰せられ候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 百八十四)

〈現代語訳〉

「信心をいただいたからには、それほど悪いことはしないはずである。あるいは、人にいわれたからといって、悪いことをするようなことはないはずであるから、このたび迷いの世界の絆を断ち切つて、浄土に往生しようと願う人が、どうして悪いと思われるようなことをするであろうか」と、蓮如上人は仰せになりました。

〈用語の解説〉

信治定………それほど。
結句をきりて………(迷いの世界の)絆を断ち切つてというほどの意。
あしきさまなること………悪いと思われるようなこと。

二〇一五年秋季彼岸会法要のお知らせ

とと 九月二十三日(水) 十時
ところ 金光寺本堂
勤行 正信念仏偈(草譜) 六首引き
講師 未定
持参品 門徒式章 聖典(お経本)
その他 彼岸会法要は金光寺仏教婦人会の定例会になっていきます。ご参詣ください。一般門徒の皆さんのご参詣もお待ちしております。ご家族おそろいでお出でください。

9月の二十四節気と七十二候

(は二十四節気・は七十二候)
白露(はくろ・9月8日)
夜中に大気が冷え、草花や木に朝露が宿りはじめの頃。
草露白(くさのつゆしろし・初候・9月8日~12日頃)
草花の上に降りた朝露が、白く涼しく見える頃。
鵲鳴(せきれいなく・次候・9月13日~17日頃)
鵲鳴が鳴きはじめる頃。
玄鳥去(つばめさる・末候・9月18日~22日頃)
日本にやってきたツバメが、暖かい南の地域へと帰っていく頃。
秋分(しゅうぶん・9月23日)
春分と同じように、太陽が真東から昇り、真西に沈む、昼と夜の長さが同じになる日。
雷乃收声(かみなりすなわちこえをおさむ・初候・9月23日~27日頃)
夏の間に鳴り響いた雷が収まる頃。
蟄虫培戸(むしかくれてとをふさぐ・次候・9月28日~10月2日頃)
外で活動していた虫たちが冬ごもりの支度をはじめの頃。
水始涸(みずはじめてかるる・末候・10月3日~7日頃)
田の水を落として、稲穂の刈り入れをはじめの頃。